総務省地域力創造グループ過疎対策室

〒100-8926　東京都千代田区霞が関 2-1-2
TEL 03-5253-5536　FAX 03-5253-5537
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

全国過疎地域自立促進連盟

〒105-0001　東京都港区虎ノ門 1-13-5　第一天徳ビル3階
TEL 03-3580-3070　FAX 03-3580-3602
http://www.kaso-net.or.jp/

平成30年度

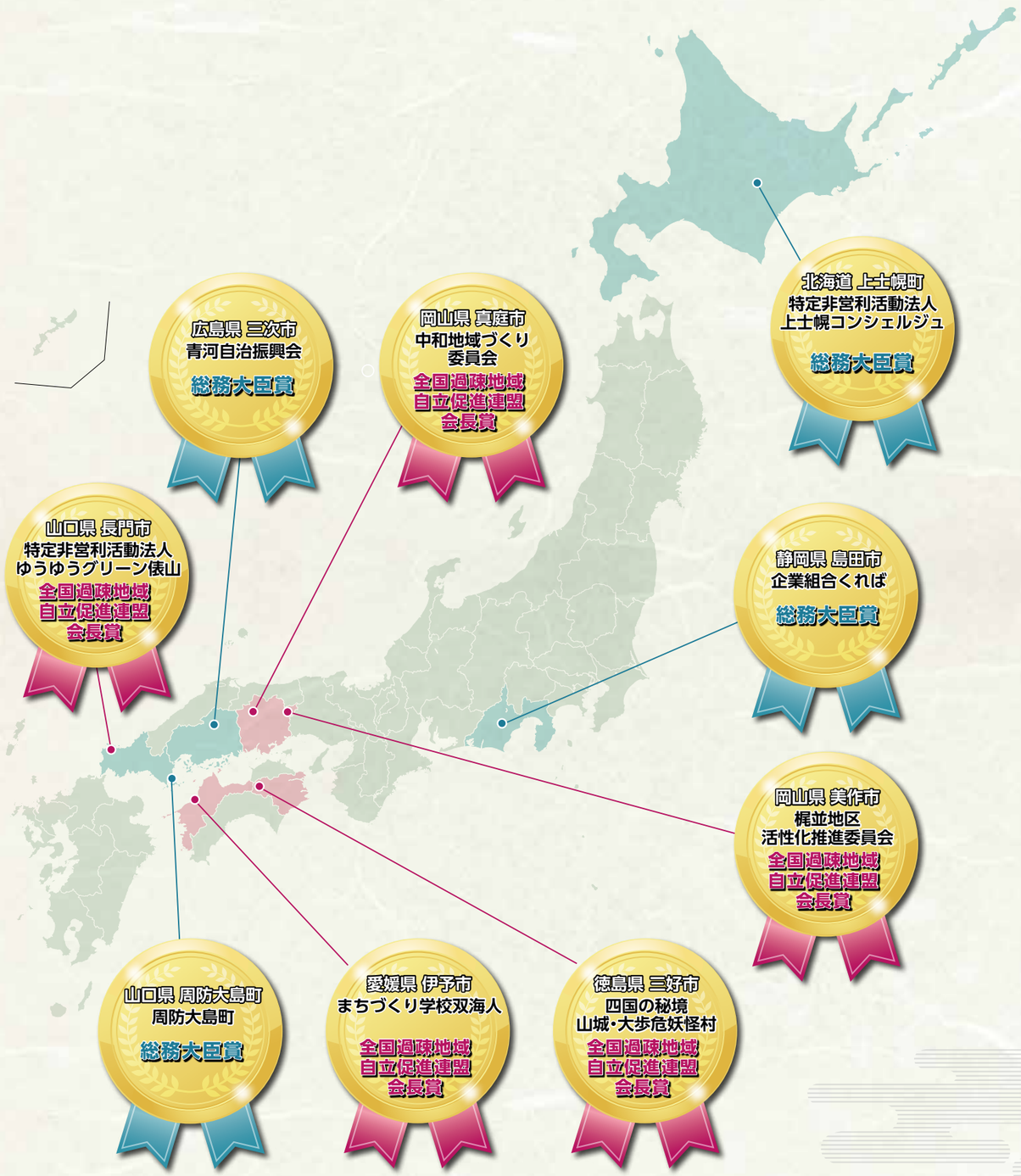
過疎地域自立活性化

優良事例表彰

総務省・全国過疎地域自立促進連盟

平成30年度

過疎地域自立活性化
優良事例表彰受賞団体



表彰受賞団体一覧

北海道 上士幌町　特定非営利活動法人　上士幌コンシェルジュ

NPO法人上士幌コンシェルジュによる都市と農村の交流促進プロジェクト

静岡県 島田市　企業組合くれば

ウエルカムささま　～ササマックスプロジェクト～

広島県 三次市　青河自治振興会

『こころ　あたたまるふるさと　あおが』
～持続的な住民主体のまちづくりへの挑戦～

山口県 周防大島町　周防大島町

周防大島には理想の「島暮らし」がある
～「ひと」や「しごと」の流れを「定住」に繋げる！～

岡山県 真庭市　中和地域づくり委員会

持続可能な地域を目指して始まった「中和いきいきプロジェクト」
～地域資源循環と移住者と地域で織り成す小さな里山資本主義～

岡山県 美作市　梶並地区活性化推進委員会

「移住者の力」を「地域の力」に
～地域団体による移住者の積極的受入れを軸とした地域活力づくり～

山口県 長門市　特定非営利活動法人　ゆうゆうグリーン俵山

できる時に、できる人が、できるだけ！
～地域住民が楽しく、誇りを持って住み続けたいと思える地域に～

徳島県 三好市　四国の秘境　山城・大歩危妖怪村

山里に伝わる妖怪伝説を核にした地域づくり

愛媛県 伊予市　まちづくり学校双海人

ふるさとを愛し、たのしく学び、みんなが幸せになる
～地域の担い手を育て、移住者も一緒に幸せづくり～

過疎地域自立活性化
優良事例表彰制度の概要

今日、多くの過疎地域では、全国に比して著しく人口減少や高齢化が進行しており、地域活力の低下や生活環境の整備に格差が見られるなど、依然厳しい状況にあります。しかし、近年、田園回帰の動きを始め、地域間交流の拡大、情報通信の発達、価値観の多様化等、過疎地域を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした中で、過疎地域は豊かな自然環境に恵まれた生活空間を提供するとともに、地域産業と地域文化の振興等を図り、個性豊かで自立的な地域社会を構築することにより、美しく風格ある国土の形成に寄与することが期待されています。

このことから、本制度は、過疎地域の自立促進に資するため、地域の自立と風格の醸成を目指し、創意工夫により過疎地域の活性化が図られている優良事例について表彰を行うものです。

都道府県からの推薦

▶

表彰委員による書類審査

- 地域の自立・活性化について、モデル的・先駆的取組といえるか？
- 地域資源を活用し、地域の魅力を一層高めるものであるか？
- 地域の自主的・主体的な取組であり、住民の積極的な参加・連携が図られているか？
- 都市との連携を図り、地域間交流の拡大に寄与しているか？

▶

表彰委員による現地調査

▶

表彰委員会による優良事例の決定

日　　時：**平成 30 年 10 月 25 日（木）13 時 20 分**
場　　所：**山口県総合保健会館多目的ホール**
（全国過疎問題シンポジウム全体会会場）
山口県山口市吉敷下東三丁目１番１号

平成30年度表彰委員会委員（敬称略）

委員長　宮口 侗廸（みやぐち としみち）
早稲田大学
名誉教授

委　員　図司 直也（ずし なおや）
法政大学現代福祉学部
福祉コミュニティ学科教授

委　員　谷 隆徳（たに たかのり）
㈱日本経済新聞社
論説委員兼編集委員

委　員　西山 未真（にしやま みま）
宇都宮大学農学部
農業経済学科准教授

委　員　平尾 由希（ひらお ゆき）
フードコーディネーター
元NHKキャスター

委員長講評

宮口 侗廸

この優良事例表彰も今年度で 29 回目となりました。私自身、このところかなりの過去の表彰団体を訪問させていただいていますが、多くの団体からこの表彰が励みになって次の展開ができたと伺い、嬉しく存じています。今年度は総務大臣賞４団体、過疎連盟会長賞５団体を選定させていただきました。

まず総務大臣賞です。北海道上士幌町の NPO 法人上士幌コンシェルジュは、移住相談のワンストップ窓口として情報館を活用し、交流会やイベントの開催、移住者の生活体験冊子の発行を通じて多数の移住者の受け入れに成功し、自主事業などで持続的な体制を構築されています。静岡県島田市の企業組合くればは、山間にあって長年の地区の活動の延長上に交流センターの指定管理者として宿泊等に実績を上げ、２年おきの国際陶芸祭の開催と外国人の移住、女性加工グループの立ち上げという素晴らしい展開をされました。広島県三次市の青河地区は、市の公民館再編の動きの中でいち早く自治振興会を発足させ、独自の暮らしサポート事業を立ち上げたほか、地域の小学校の価値を守るために、空き家を改修して子供のいる移住希望者に賃貸する会社を有志が設立、多くの家族の移住を実現されました。山口県周防大島町は平成 20 年に「観光交流人口 100 万人」を掲げ、民間で受け入れる体験型修学旅行、ハワイ移民の実績に関わるフラダンスの全国イベント、移住者への起業支援、サテライトオフィスなど、町としての取組みが大きく評価されました。

続いて連盟会長賞です。岡山県真庭市の中和（ちゅうか）地域づくり委員会は、Ｕターン者を中心に薪プロジェクトで宿泊施設の薪ボイラー化を実現、市との連携で生まれた「真庭なりわい塾」で都市住民に農山村の価値を実感させ、地域を挙げて小学校をサポートされています。岡山県美作市の梶並地区活性化協議会は、行政との連携のもと空き家活用に精力的に取り組み、移住やお試し居住を実現するとともに、他出者の空き家管理サービスでさらなる展開が図られていることが評価されました。また山口県長門市の NPO 法人ゆうゆうグリーン俵山は、学生のインターン事業に長年取り組み、地元の公的施設の指定管理、交通空白地の有償運送に貢献する中で、近年では地域おこし協力隊の地域貢献とその後の起業・定住をサポートし、大きな成果が上がっています。徳島県三次市山城町の山城・大歩危妖怪村は、山村の暮らしに残る多数の妖怪話を見える化したユニークな取組みで、児啼爺はじめ 100 を超える手づくりの妖怪の里歩きコース、「怪フォーラム」の開催、道の駅の妖怪屋敷化などに頑張っておられます。最後に愛媛県伊予市双海町のまちづくり学校双海人（ふたみんちゅ）は、地元有志と地域おこし協力隊員主導で高校生も参加して発足、軽トラ市などの開催に加え、移住プロジェクトでは子供の多い家族の移住を実現し、山村部の小学校存続に寄与するなど、有志の会としては出色の活動と言えます。

今年度も表彰団体は、１つの自治体、２つの NPO、新旧小学校区の地域運営組織にあたるものが４団体、旧町村単位に生まれた２つの任意団体と、多彩な顔ぶれとなりました。特に小学校区という単位での地域運営組織が過疎地域の住民生活の拠り所として大きな価値を発揮することは、過疎問題懇談会からも強く提言させていただいています。ぜひ参考にしていただき、地域の暮らしをより豊かにする地域にふさわしい取組みを進めていただきたいと思います。

総務大臣賞

特定非営利活動法人　上士幌（かみしほろ）コンシェルジュ

NPO法人上士幌コンシェルジュによる都市と農村の交流促進プロジェクト

月一回開催の誕生会は、先輩移住者が１８年前から行っている会。夕食を持ち寄り、町民・移住者・移住希望者等が集い、人が繋がる場となっている。

●●事例の概要●●

旧豊岡小学校を地域と人をつなぐ交流拠点となるよう畑や教室内の整備をしている。

上士幌町では過疎問題に立ち向かうべく、平成 17 年度から町が中心となって生活体験事業を実施してきたが、よろず相談ができる総合窓口のないことが課題となっていた。このため、官民連携で移住促進を図るべく、町内の有志により、平成 22 年６月に「特定非営利活動法人　上士幌コンシェルジュ」を設立した。

移住希望者を対象とした上士幌町での生活体験者数は、事業を運営してから飛躍的に伸びており、平成 23 年度から平成 29 年度の７年間で、286 組 717 人が参加している。北海道は積極的に移住促進事業を実施しているが、その中でも上士幌町の実績は道内自治体でトップクラスであり、町への移住者や二地域居住者は７年間で 109 人に上っている。

また、移住者が地域に溶け込み安心して暮らせる環境を整えるため、移住者が開催する誕生会やフリーマーケット、仮装盆踊り等様々な交流会やイベントを支援し、地元町民と移住者を繋ぐ役割も担っている。特産品の開発や販売をはじめ、ふるさと納税による特産品の発送により、地域の特産物を活かした都市と農村の交流促進にも積極的に取り組んでいる。

●●評価のポイント●●

上士幌町は、ふるさと納税で得た資金で基金を設けて、認定こども園の保育料無料化など子育て支援に力を入れている町である。その結果、平成 30 年４月末には人口が 5,000 人台に回復するなど、移住者の増加で人口が増えている全国的にも稀有な地域である。

官民連携で移住促進活動を図るべく、町内の有志により平成 22 年に設立された NPO 法人「上士幌コンシェルジュ」は、移住相談のワンストップ窓口となっている団体で、町や民間が整備した様々な移住体験住宅で生活体験モニターを受け入れている。平成 29 年度だけでも 56 組（157 人）を受け入れ、同 NPO が関与した分だけでも 10 組（22 人）が実際に町に移住・二地域居住をしている。

同団体は、移住者が主催する誕生会やフリーマーケット、仮装盆踊りなど様々な交流会やイベントを支援し、移住者と町民を繋ぐ役割も担っている。実際に上士幌町に移住した人の声をまとめた冊子なども充実している。同団体の拠点であるかみしほろ情報館は、町の観光案内の拠点でもあり、移住者と町民が交流する場にもなっている。

同団体は移住支援事業のほか、ふるさと納税の返礼品の発送業務やネットショップの運営なども町からの委託事業として行っており、町内の事業者と協力して新たな特産品の開発などにも取り組んでいる。

また、自主事業として、廃校になった小学校を町から買い上げ、農業体験などもできる交流拠点にする取組なども始めている。

移住者を増やす試みは全国の自治体で広がっているが、民間主導でワンストップの窓口を設け、様々な形で移住者と町民を繋ぐ試みをしている同団体は高く評価できる。単に移住者を増やすことではなく、その移住者が「町民として元気に暮らしてもらう」ことに力を入れている点が素晴らしい。行政の単なる下請けではなく、様々な自主事業に取り組んでいる点も評価したい。

フリーマーケットは、町民と移住者が町を盛り上げたいと始めたことがきっかけ。「あったらいいね」を形にし、１日約 100 人が訪れるほどになってきている。

上士幌コンシェルジュでは、地域の特産品販売を行っており、町のイベントにて、特産品を使った料理の提供をすることで、積極的に町の PR を行っている。

旧豊岡小学校で行っている商品開発。「ドレッシング」や「じゃがいもクッキー」などを販売し、より良い商品開発のヒントを探っている。

DATE　北海道 上士幌町（かみしほろちょう）

団体名▶特定非営利活動法人　上士幌コンシェルジュ
所在地▶〒080-1408　北海道河東郡上士幌町東３線231番地かみしほろ情報館
連絡先▶TEL：01564-2-3993　FAX：01564-7-7166
E-mail：info@kamishihoro.net
URL:kamishihoro.net

【交通のご案内】
自動車▶札幌市から車で約3時間30分（道東自動車道　十勝清水ＩＣを降り車で約1時間）
帯広市から車で約50分
鉄　道▶札幌駅から帯広駅まで乗車時間約3時間
新千歳空港駅から帯広駅まで乗車時間約2時間20分
※帯広駅から車で約50分
飛行機▶新千歳空港から車で約3時間
とかち帯広空港から車で約1時間20分

▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
上士幌町	10,570	7,571	5,634	5,229	5,080	4,765

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
上士幌町	-54.9	-37.1	-15.4	-8.9	-6.2

▶高齢者・若年者比率（H27 年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
上士幌町	35.2	10.7

総務大臣賞

企業組合くれば

ウエルカムささま　～ササマックスプロジェクト～

第４回国際陶芸祭には、17 カ国、約 70 人アーティストが参加。地元スタッフとの交流も深まり活性化に一役かった。山村都市交流センターの食堂にて。

●●事例の概要●●

陶芸を学びに来日し定住、スタッフとなったフランス人のジョセフィンによる料理教室。

島田市川根町の北部の大井川支流笹間川の谷筋に点在する 10 集落で形成される笹間地区では、過疎化・少子高齢化が進み地域の小・中学校の統廃合が課題となっていた。これらの課題解決に向けて、地域住民の有志が外部との交流や地域の歴史・文化の掘り起こしなどに取り組み始める中、廃校となった旧笹間小学校を市が都市住民との交流の場「山村都市交流センターささま」として整備したのを契機に、交流センターを運営管理する組織として「企業組合くれば」を設立し、各種イベント等の開催に地域ぐるみで取り組んでいる。

また、地域資源を活かしながら住民全体でアーティストインレジデンスを実施することで、定住・交流人口の増加、地域への経済的効果を高めている。特に、国際陶芸祭やアーティストインレジデンスの取組では、地域住民と陶芸家、来場者との交流を通じて地域に活気をもたらしており、さらに、地元食材を利用した加工販売施設の開設により、女性やお年寄りの活躍の場を創出している。

●●評価のポイント●●

大井川支流の谷筋に集落が点在する笹間地区は、茶業・林業を主として昭和 30 年代に 1,000 人以上が住む山村だったが、基幹産業が厳しくなり、現在は 172 世帯 367 人、高齢化率 61%と過疎化が進む。

その中で、むらの将来に危機感を持った有志が、平成２年「なまずや会」を結成。「なんでも、まず、やってみよう」と、静岡市内での「ささま市」の開催や、山村留学の勉強会、笹間川の環境保全活動など、地域に自信を取り戻そうと様々な活動に取り組んだ。

その動きも 10 年を重ね限界を感じる中で、地元小・中学校の統廃合の議論をきっかけに再度、地域の将来を考える機運が高まった。結果として、閉校となった小学校を「山村都市交流センターささま」として市が整備し、地域に拠点が残った。

それを受け、地域への経済的な波及効果を目指し、平成 22 年、地域の有志で「企業組合くれば」を設立。２年目からは交流センターの指定管理者となり、合宿利用や川遊びやピザ焼きなどの体験メニューを通して、今では毎年 3,000 人前後が宿泊し、17,000 人の利用がある。また、センターを核にほたるの里まつりや地元イベントも自治会などとも協力して開催する。

さらに、センターが築いたネットワークの縁を地域住民が受け止め、平成 23 年からは「ささま国際陶芸祭」を隔年で開催。国内外の参加者と地域住民との交流も深まり高く評価され、空き家を利用したアーティストインレジデンスの模索を通して、外国人の移住もあり、山村からグローバルなつながりも生まれている。

さらに、女性たちが地元の素材を活かした加工グループを立ち上げたり、笹間の歴史や文化、暮らしのよさをインバウンドの機会に積極的に活かす「ワビ・サビレッジ」を目指す新たな展開も進めている。

「なまずや会」の結成から 30 年近くを経ても、当時の初心を忘れず、山村を開いて新たな価値を地域に取り込み、経済循環につなげようと地域づくりを前進させる笹間の人たちの姿勢を高く評価したい。

国際陶芸祭では、参加者も海外アーティストと一緒に様々な製作物を作り上げイベントを盛り上げます。写真は、巨大なオンギ壺（韓国）の製作。

古民家などを活用した加工グループ「ひなたぼっこ」、「母屋」（かかや）が誕生し、地元の食材を使った各種の活動を行い、イベントを盛り上げています。

集落の中心を流れる清流笹間川。山村都市交流センターを拠点に、都会の子どもたちは各種の体験ができますが、その中でも人気の川あそび。

DATE　静岡県 島田市（しまだし）

団体名▶企業組合くれば
所在地▶〒428-0211　静岡県島田市川根町笹間上394番地
連絡先▶TEL：0547-54-0661　FAX：0547-54-0312
E-mail：koryu-c-sasama@cy.tnc.ne.jp
URL:http://kcsasama.wixsite.com/sasamahp

【交通のご案内】
自動車▶新東名高速道路　島田金谷ＩＣから約45分
東名高速道路　相良牧之原ＩＣから約1時間
国道1号線　向谷ＩＣから約40分／国道1号線　大代ＩＣから約50分島田駅から約50分
鉄　道▶東海道新幹線ひかり号を利用　東京から静岡まで約1時間　名古屋から浜松まで約30分
東海道本線普通電車を利用　静岡から島田まで約30分　浜松から島田まで約45分
飛行機▶富士山静岡空港　島田駅まで20分

▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
島田市	53,900	70,705	75,248	96,078	100,276	98,112
(旧)川根町	10,452	7,957	6,501	6,030	5,449	4,869

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
島田市	82.0	38.8	30.4	2.1	-2.2
(旧)川根町	-53.4	-38.8	-25.1	-19.3	-10.6

▶高齢者・若年者比率（H27 年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
島田市	29.5	13.1
(旧)	42.0	9.3

総務大臣賞

青河自治振興会（あおがじちしんこうかい）

『こころ　あたたまるふるさと　あおが』
～持続的な住民主体のまちづくりへの挑戦～

67人の地域住民出資により設立した「合同会社あおが」が運営する農家レストラン「こいこい屋」を中心とした新しいコミュニティビジネスの展開につながっている。

●●事例の概要●●

小学校田植え体験。現在も青河町の“地域遺伝子”が生き続け、地域を守り続けている。

青河地域では、戦後から青河公民館を中心に積極的な公民館活動や町おこしの取組が行われてきたが、平成16年に設立した「青河自治振興会」に公民館時代の組織を継承し、青河コミュニティセンターを活動拠点として活動を続けている。

具体的には、子どもは地域の宝との考えの下、「農」を中心とした田舎文化と都市の交流を目標に掲げ、青河自治振興会が中心となって、住民主体で地域の暮らしを守り、都市農村交流の推進に向けた活動を展開している。

また、「有限会社ブルーリバー」による定住促進対策事業や「合同会社あおが」による農家レストランの運営など、様々な地域運営の手法により地域活性化に取り組んでいる。

このように、住民が主体となって地域の暮らしを守り、また、交流活動を展開しており、地域愛が高いことは，青河地域の住民に安心感を抱かせ，生涯，この地に住み続けたいという思いにつながっている。

●●評価のポイント●●

青河地域は、旧三次市郊外の青河小学校区を単位とした混住化が進む農村地帯（人口438人、世帯数172世帯）であるが、世代を超えて自治の志を受け継ぎ地域づくりに取り組む。

まず、平成に入って改築された青河小学校の児童数が年々減少し、40人を下回った時点で、「地域で小学校を守ろう」と有志9人が資金を出し合い、平成14年に有限会社ブルーリバーを設立した。同社は、遊休地への定住住宅の建設や空き家をリフォームした住宅の賃貸業を通して、移住者を小学校の存続につなぐ。自己資金をもとに、家賃収入、太陽光発電の売電収入を得て展開する事業は、地域に馴染めるファミリー層を選び取れる強みを有し、新たに14家族64人を地域に迎えている。

その中で、新・三次市合併後の公民館再編の動きを受けて、平成16年、青河自治振興会が発足。7つの部会に加え、振興会直営で独自の暮らしサポート事業を立ち上げる。この事業では、各戸年4,500円の負担で様々なサポート（代行・輸送・知識情報・業者紹介など）を受けられ、買物や病院への移動手段にも活用されている。

さらに、平成18年には、青河地域の将来のあるべき姿と道筋を描いた、「青河町町づくりビジョン」（地域版総合計画）を住民手作りで策定した。「農を中心としたまちづくり」を掲げ、青河小学校の総合学習と連携した農業体験や行事、町民誰でも出荷できる朝市「よりんさい屋」の運営など、できることから取り組みが始まっている。

平成28年には、住民67名の出資により合同会社「あおが」が発足。週末にそばを中心とした農家レストランを開店し、どぶろくの製造やイベントなどにも活用できる新たな交流拠点が生まれている。

「青河に暮らす意味」を常に問い直す姿勢を原点として、「地域を自分たちで作り上げるしかない」という志とともに、時間をかけながら「守り」から「攻め」の自治へと多彩な取り組みを生み出す、青河の実践プロセスと着実な成果を高く評価したい。

サツマイモの収穫を通じての広島市内の園児と保護者との交流が15年間続き、今でも成長した子ども達との交流がある。

広島市内の「宇品公民館祭り」に合わせて，青河地域で収穫された米や野菜，加工した餅や漬物などを運び込み，対面販売している。

青河ホタル祭り。小学生の環境学習や環境保全・啓発活動の発表の場にもなっている。

DATE　広島県 三次市（みよしし）

団体名▶青河自治振興会
所在地▶〒728-0024　広島県三次市青河町582番地1
連絡先▶TEL：0824-67-3701　FAX：0824-67-3701
E-mail：aoga@m-city.jp
URL:http://blog.livedoor.jp/aogablog/

【交通のご案内】
自動車▶山陽自動車道　広島ＩＣから中国縦貫自動車道経由で大阪方面へ
約１時間（三次ＩＣ下車）
中国横断自動車道尾道松江線　尾道北ＩＣより松江方面へ
約50分（三次東ＩＣ下車）
国道54号　広島市より約１時間45分
鉄　道▶JR広島駅からJR三次駅まで約１時間50分（快速で約１時間15分）
飛行機▶羽田空港から広島空港まで約１時間30分広島空港から
国道375号経由で約１時間30分

▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
三次市	42,163	37,877	61,635	59,314	56,605	53,615

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
三次市	27.2	41.6	-13.0	-9.6	-5.3

▶高齢者・若年者比率（H27年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
三次市	35.0	12.5

総務大臣賞

周防大島町

周防大島には理想の「島暮らし」がある
～「ひと」や「しごと」の流れを「定住」に繋げる！～

周防大島町は、「交流から定住へ」のキャッチフレーズのもと、島に人を呼び込み、「理想の島暮らし」へと繋ぐ取り組みが行われている。

●●事例の概要●●

廃校や古民家を活用し、サテライトオフィスを開設する取組が進み、雇用の創出に繋がっている。

周防大島町の人口は、昭和 22 年のピーク時から約４分の１に減少するなど、全国に先駆けて過疎・高齢化が進んでいる。こうした状況を踏まえ、町では、定住促進対策に重点的に取り組んでおり、観光交流人口 100 万人構想、交流から定住へ、そして地域住民や移住者の誰もが主役になって活躍できるまちづくりを目指している。

代表的な取組のひとつが、基幹産業である農業や漁業と観光交流を結びつけた体験型修学旅行である。参加者受入数は県内最多であり、農業・漁業の担い手がホームステイの受入家庭や体験のインストラクターとして活躍するなど、地域間交流や世代間交流が地域活性化に繋がっている。

また、町内外のチームが参加し、フラダンスを披露する「サタフラ」の取組等によって、さらなる交流人口の増加に繋げるとともに、島の農林水産物を活かして起業する人材の育成や、廃校や古民家を民間企業にサテライトオフィスとして貸し出す取組のほか、定住相談の窓口となる「周防大島定住促進協議会」の設置や、一泊二日の島暮らし体験を提供する「島時々半島ツアー」の開催など、「ひと」や「しごと」の流れを「定住」に繋げる多様な活動を行っている。

●●評価のポイント●●

山口県周防大島町は、かつてハワイに多くの移民を送り出したことから「瀬戸内のハワイ」をキャッチフレーズに交流人口の拡大に取り組む町である。現在は「交流から定住へ」の方針の下、移住者の起業支援などにも知恵を絞っている。

町は平成 20 年に「観光交流人口 100 万人」という目標を掲げ、観光振興などに取り組んできた。ユニークなのは民家で受け入れる体験型修学旅行である。17 年間で全国から 30 校 4,500 人の生徒を受け入れてきたことが、町の基幹産業である農業や漁業などの第１次産業と観光交流を結びつけた新たな産業の創出に繋がっている。この試みは経済効果だけでなく、地元住民の生きがいにも繋がっている。また、全国のフラダンス団体に夏期の土曜日にお披露目の場を提供する「サタデーフラ」など様々な企画も実施し、平成 28 年には目標であった観光交流人口 100 万人を達成した。

移住者を増やすために、一泊二日の島暮らし体験を行い、島で現実に暮らすということを体感できる「島時々半島ツアー」や、町の所有する物件に２週間から最大４週間居住してもらう「お試し暮らし制度」なども実施している。このほか、民間主導で移住希望者と地元の人々との交流を支援する団体もできている。

また、移住者が起業する事例も増えている。瀬戸内ジャムズガーデンなどがその代表格で、先輩の移住者が行政とは別に新たな移住者を支援する動きが広がっている。町は、道の駅に安い家賃で借りることができる「チャレンジショップ」を設け、その卒業生の中から起業する人も出ている。企業のサテライトオフィスの誘致にも乗り出しており、廃校になった小学校や空き家にオフィスを開設し、地元に雇用を生んでいる。

観光振興や移住促進に取り組むだけでなく、「仕事」をつくるために官民が協力して起業支援に注力している点は高く評価でき、今後も人口減少が避けられない地域だが、その先をにらんで地道な取組を続けてほしい。

町内外から多くのチームが参加し、土曜日にフラダンスを披露する「サタフラ」の取組が注目を集め、交流人口の増加に繋がっている。

島の地域資源を活かして起業する人材が増加したことによって、「起業の島」のイメージが定着し、移住者が移住者を呼び込み、UI ターン者の増加に繋がっている。

体験型修学旅行等によって、都市部の若者を呼び込む取組が、島民の生きがいづくりと周防大島のファンの増加に繋がっている。

DATE　山口県 周防大島町（すおうおおしまちょう）

団体名▶周防大島町
所在地▶〒742-2192　山口県大島郡周防大島町小松126-2
連絡先▶TEL：0820-74-1007　FAX：0820-74-1015
E-mail：seisakukikaku@town.suo-oshima.lg.jp
URL:http://www.town.suo-oshima.lg.jp/
【交通のご案内】
自動車▶山陽自動車道　玖珂ＩＣから国道437号線で30分
鉄　道▶JR山陽本線大畠駅から定期バス乗車
飛行機▶岩国錦帯橋空港から車で40分

▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
周防大島町	49,739	32,021	23,013	21,392	19,084	17,199

▶人口増減率（単位：％）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
周防大島町	-65.4	-46.3	-25.3	-19.6	-9.9

▶高齢者・若年者比率（H27 年）（単位：％）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
周防大島町	51.9	6.8

全国過疎地域自立促進連盟会長賞

中和地域づくり委員会

持続可能な地域を目指して始まった「中和いきいきプロジェクト」

～地域資源循環と移住者と地域で織り成す小さな里山資本主義～

中和地域の温泉施設に導入された薪ボイラー。地元小学校では補助燃料となる「竹筒燃料棒」をつくる環境学習を行い、実際に温泉施設の薪ボイラーに利用されている。

●●事例の概要●●

重くてかさばる薪の活用を通じて、世代を超えた人のつながりも新たに生まれている。

真庭市が中和地域を交流人口の増大に向けて取り組むモデル地区に指定したことを受けて、「中和地域づくり委員会」が中心となり様々な取組を行っている。

具体的には、地域外に流出していた消費を、地域内の資源を活用することで地域内で経済を循環させる「薪プロジェクト」、都市部の若者が昔からの暮らしやなりわいを地域に入り地域から学び、持続可能なライフスタイルを模索する「真庭なりわい塾」、庭先で栽培した余った作物を出荷することで、やりがいや生きがいを創出し、出荷者同士のコミュニティ強化を図る「庭先野菜プロジェクト」の３本を柱とした「中和いきいきプロジェクト」を展開し、地域住民も移住者も子どもから高齢者まで、みんながいきいき活躍できる地域を目指している。

また、移住者の中には、薪の生産販売や地元農産物の加工販売を手がける者や、地域のコミュニティの場となっている直売所兼カフェを経営する者もおり、活動の成果が着実に広がっている。

●●評価のポイント●●

真庭市は平成 17 年に９町村が合併して誕生したが、その際、９町村を単位とする地域づくり委員会を設置する条例をつくり、最も小さな自治体だった旧中和村に置かれたのが「中和地域づくり委員会」である。現在 248 世帯 610 人の中和地区が活性化に向けて地域の色々な動きをキャッチして人と人を繋ぎ、地域に活力を生み出してきた。

取組のきっかけは中和地域づくり委員会が実施した全戸配布のアンケート調査であり、今後 10 年間で地域内人口の約 22%（150 人）が減る予測を受けて、小学校が存続できる持続可能な地域づくりをめざす機運が高まった。U ターン者を中心にして生まれた薪生産組合を「薪プロジェクト」と位置付け、庭先で採れた野菜を出荷することで生きがいに繋げる「野菜プロジェクト」、農山村の暮らしから持続可能なライフスタイルを都市住民に学んでもらう「真庭なりわい塾」（市との協働事業）とともに、「中和いきいきプロジェクト」として地域づくり委員会のもとに体系化し、活動を展開している。薪プロジェクトは地元の宿泊施設の薪ボイラー化を実現し、なりわい塾は３期目に入り、移住者も出現した。さらに 29 年からは、空き家を活用し移住定住を進める「空き家再生プロジェクト」も開始されている。

児童数 24 人の中和小学校は、「学校の森・子どもサミット」に３年連続で参加するなど、「地域いきいき学習」を展開し、総合学習ではボイラー用の竹筒燃料などもつくる。29 年に地域の女性の主導により、支援組織「中和いきいきサポーターズクラブ」が誕生し、中学生から 70 代まで 70 名の会員がいる。現在、真庭なりわい塾生との協働で、空き店舗を子供の学習活動や住民の会話の場に使える建物に改修中である。

小さな社会は縦割りでは動かない。中和地区では少ない住民が横に繋がって暮らしを豊かにする仕組みが次々に生まれていて、地域づくり委員会がそれを繋いで下支えする役割をしっかりと果たしていることが、中山間地域の小地域社会の持続的展開事例として大きな評価に値する。

家庭菜園等で栽培し余った野菜の出荷を通して、出荷場所での生産者同士の会話も弾み、コミュニティの強化に役立っている。

地域のお年寄りから昔ながらの暮らしぶりを伝承するため、聞き書きしている。講師を務めることで自分たちの暮らしや地域に対する誇りが生まれている。

約 70 世帯の住民から聞き取りを行い、地域自らが主体的に中和にある様々な魅力の発掘を行っている。

DATE　岡山県 真庭市（まにわし）

団体名▶中和地域づくり委員会
所在地▶〒717-0513　岡山県真庭市蒜山下和1802番地(真庭市蒜山振興局中和出張所内)
連絡先▶TEL:0867-67-2111　FAX:0867-67-2205
E-mail:
URL:なし

【交通のご案内】
自動車▶米子自動車道　久世ＩＣから約50分
米子自動車道　湯原ＩＣから約30分
鉄　道▶岡山駅から津山駅(JR津山線:約70分)を経由して
津山駅から久世駅(JR姫新線:約40分)
飛行機▶岡山空港から車で約60分

▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
真庭市	76,378	60,586	54,747	51,782	48,964	46,124

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
真庭市	-39.6	-23.9	-15.8	-10.9	-5.8

▶高齢者・若年者比率（H27 年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
真庭市	36.6	10.3

全国過疎地域自立促進連盟会長賞

梶並地区活性化推進委員会（かじなみちくかっせいかすいしんいいんかい）

「移住者の力」を「地域の力」に　～地域団体による移住者の積極的受入れを軸とした地域活力づくり～

梶の葉の七夕祭りでの委員会のメンバー。祭りでは、梶の葉の短冊に願いを書いて飾り、梶の葉を通じて梶並の歴史を振り返るとともに地域の賑わいを創出している。

●●事例の概要●●

梶並地区活性化推進委員会のメンバーによるお試し住宅の清掃活動。

梶並地域は美作市の最北端に位置し、市中心部から離れているため、近年は地区内の小学校が閉校になるなど、年々進行する少子高齢化等による地域活力の衰退が憂慮されていた。こうした中、自分たちの地域を守り、育て、築き上げることを目標に、地域住民が主体となって、自主的な活動を行う「梶並地区活性化推進委員会」を発足させた。

活動の基本方針としては、まず移住希望者を受け入れる土壌を醸成し、地域への移住者を増やすこと、さらに、移住者を住民として受け入れることで地域活力の創出に向けた活動に積極的に関与してもらうことを掲げている。

そのための取組として、「お試し住宅」の管理、入居者へのサポート、入居期間終了後の空き家の紹介等を住民自らが行い、梶並地区への移住者を増やすとともに、移住者等を地域行事や特産品づくり等の地域づくり活動に巻き込み、その力を地域力の向上に役立てている。なお、「お試し住宅」に係る取組では、利用した 13 世帯のうち 8 世帯 15 名が地区内へ定住する成果を上げている。

●●評価のポイント●●

岡山県美作市旧勝田町の梶並地区は、平成 29 年時で人口が 635 人、高齢化率が 6 割を超える典型的な中山間の過疎地域である。しかしながら、梶並地区活性化推進委員会（通称梶活（かじかつ））を中心とした地区住民による様々な取組が農村の価値の創造・再発見を生み、その発信が梶並地区の知名度を上げてきた。

梶並地区活性化推進委員会の中心的な活動は、「空き家活用システム」である。増える空き家を活用して移住者の受け皿とし、地区の人口増加を目指している。空き家を整備し、移住希望者には「お試し住宅」として、また、移住者には「貸家」として利用してもらっているほか、他出者の空き家の管理（草刈り、通風管理、郵便物保管など）をする「空き家管理サービス」も立ち上げている。

梶並地区の活動が順調に進んできた理由として、行政と地区との連携や新旧住民の連携、地区住民と他出者との連携がある。こうした連携を深めながら、梶並地区では農村や社会関係等の価値の再発見・創造がなされている。これらは、現代の経済・社会発展の中で見落とされてきた価値であり、それを見直すことで生きる意味や生活実感を取り戻し、この地区への移住が促されているといえる。

今後の課題は、まず前述した地区住民と他出者との連携を強化し、空き家活用システムをビジネスとして成立させることだろう。ビジネスの素材となる価値は既に創造されており、具体的には、空き家の活用による農村シェアハウス、農村での人おこしプロジェクト（人間関係再生）、倉庫サウナ、民泊、複数のコミュニティスペースの開設、作家発掘、高齢者の食事場所の開設、かじかつ弁当やこんにゃくの商品化など多岐にわたり、これらに地区住民が一人何役も関わることにより、さらに住民の連携が深まっている。これからの取組の成果にも大いに期待したい。

梶並地区活性化推進委員会のメンバーが、毎週木曜日に交代で特産品のさしみこんにゃくを一生懸命手作りで製造している。

梶並空家管理システム（ＫＡＫＳ）：2015 年の美作地域コミュニティビジネスプラン・コンテストで最優秀賞を受賞。遠方の所有者に代わり空家の清掃、管理等のサービスを行なっている。

おもに視察・研修の受入時などに、おもてなしの一環として、地域の旬の食材や特産品、さしみこんにゃくなどを使用した「かじかつ弁当」を提供している。

DATE　岡山県 美作市（みまさかし）

団体名▶梶並地区活性化推進委員会
所在地▶〒707-0201　岡山県美作市梶並70（やまゆり苑内）
連絡先▶TEL：0868-75-3444　FAX：0868-75-3444
E-mail：kajikatsu@googlegroups.com
URL:kajikasu.webcrow.jp
【交通のご案内】
自動車▶中国自動車道　美作ＩＣから約25分
鉄　道▶岡山駅から大原駅（智頭急行：約60分
大阪駅から大原駅（智頭急行：約110分）
鳥取駅から大原駅（智頭急行：約45分）
飛行機▶岡山空港から車で約90分

▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
美作市	52,598	38,430	34,577	32,479	30,498	27,977

▶人口増減率（単位：％）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
美作市	-46.8	-27.2	-19.1	-13.9	-8.3

▶高齢者・若年者比率（H27 年）（単位：％）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
美作市	38.2	12.9

全国過疎地域自立促進連盟会長賞

特定非営利活動法人　ゆうゆうグリーン俵山（たわらやま）

できる時に、できる人が、できるだけ！
～地域住民が楽しく、誇りを持って住み続けたいと思える地域に～

俵山地域は、古くから湯治客が多く訪れる地域であり、温泉をはじめとする地域資源を活用した体験交流活動が盛んに行われている。

●●事例の概要●●

NPO 法人が管理する「俵山スパスタジアム」では、ラグビーワールドカップ 2019 のキャンプ地招致が計画されている。

かつて俵山地域には多くの湯治客が訪れていたが、利用客の減少に伴い地域の活力が低下し、人口の流出も続いていたところであり、地域の活力を取り戻すためには、住民自らが地域に誇りと愛着を持ち、住み続けたいと思えるまちづくりが必要とされてきた。

こうした状況の中、俵山地域としてまちづくりを主体的に行うため、「特定非営利活動法人ゆうゆうグリーン俵山」を設立した。

具体的には、地域資源である俵山温泉を有効に活用し、グリーンツーリズムの推進やお試し暮らしの宿（ゆうゆうの宿）の運営、公共交通空白地の有償運送などの取組を展開する中で、都市農村交流活動や移住定住の動きが活発化し、新たな活力の創出につながっている。

また、近年では、地域外からの研修や視察も増加しており、大学生の地域づくりインターン事業や地域おこし協力隊の活動等を通じて、新たな地域資源の発見や活動拡大に向けたモチベーション向上のほか、地域コミュニティの再構築にも繋がっている。

●●評価のポイント●●

俵山温泉を中心に 10 の農村集落が取り囲む長門市俵山地域では、「特定非営利活動法人　ゆうゆうグリーン俵山」が中心となり、「俵山地区発展促進協議会」や自治会といった地域団体や住民との強い連携の下で、地域が直面する様々な課題の解決に積極的に取り組んでいる。

「ゆうゆうグリーン俵山」は、里山ステーション俵山や俵山スパスタジアムの指定管理、空き旅館を活用したお試し暮らしの宿などの運営を行いながら、里山ステーション俵山を拠点に、農業などの産業振興、集落間の交通空白地の運送事業などのネットワークの強化、都市部の大学生を受け入れて俵山の産業体験を行う「地域づくりインターン事業」などに取り組み、都市農村交流活動を通じた移住定住の促進を図るなど、実に多種多様な活動で地域活性化に取り組んでいる。

地域おこし協力隊は、「ゆうゆうグリーン俵山」に預けられる形が取られ、地域ぐるみで受け入れて独立や定住を支援するため、地域おこし協力隊員の多くが任期後も地域に残り、起業するなどして地域活性の一翼を担っている。

また、食肉処理販売所「俵山猪鹿工房　想」が仕掛ける「長門ジビエ」は、農作物への甚大な被害を与える猪鹿を食肉に加工することで有効活用しようと始まったもので、研究熱心な代表者の下、地元のデザイナーによるラベル作りや、女性たちによるレシピ開発のほか、地域おこし協力隊員が革製品への加工などに取り組んでおり、今後、俵山の地域ブランドとなっていくことが大いに期待できる。農作物の鳥獣被害から、猪鹿の食肉加工の取組を行っている地域は全国的にも多い。ぜひ魅力的な加工品や料理を作り出し、ジビエ先進地として俵山地区がモデルケースとなることに期待したい。

俵山は、住民一人一人が地域の未来に責任を持とうとする意識が強く、「住みたくなるまち」を目指した協働の取組は、他地域の優良な手本になると高く評価したい。

移住希望者が、中長期的に宿泊するための施設である「ゆうゆうの宿」の運営を行うなど、地域への移住・定住の促進に積極的に取り組んでいる。

バス停が存在する基幹的集落から、周辺集落にある高齢者の自宅を連絡する公共交通空白地有償運送事業に取り組んでいる。

地域おこし協力隊は、地域ぐるみで受け入れており、コーヒーショップの起業や任期終了後の定着に繋がっている。

DATE　山口県 長門市（ながとし）

団体名▶特定非営利活動法人　ゆうゆうグリーン俵山
所在地▶〒759-4211　山口県長門市俵山4497番地　里山ステーション俵山内
連絡先▶TEL：0837-29-5070　FAX：0837-29-5071
E-mail：u-u-green@hot-cha.tv
URL:http://tawarayama.jp/
【交通のご案内】
自動車▶中国自動車道　美祢ＩＣから30分
鉄　道▶JR新山口駅から車で１時間
飛行機▶山口宇部空港から車で１時間20分

▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長門市	62,866	50,892	43,473	41,127	38,349	35,439

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
長門市	-43.6	-30.4	-18.5	-13.8	-7.6

▶高齢者・若年者比率（H27 年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
長門市	39.7	10.0

四国の秘境　山城・大歩危妖怪村

山里に伝わる妖怪伝説を核にした地域づくり

全国過疎地域自立促進連盟会長賞

山里に伝わる妖怪伝説を後世に受け継いでいくため、また、地域の特性を生かした活性化につなげるため、毎年 11 月に「妖怪まつり」を開催。

●●事例の概要●●

地元生まれの妖怪「児啼爺」が駅長に就任。

昭和 30 年代に最大１万５千人いた人口が、現在では４千人弱まで減少した三好市山城町は、大歩危・小歩危や塩塚高原などで知られる四国山地の険しい秘境であり、全国でも稀な数多くの妖怪伝説が残る山里でもある。

地元のボランティア団体が中心となり、地域の魅力を再発見するため、環境美化や歴史の調査などの活動をする中で、山城町が「児啼爺（こなきじじい）」の伝説発祥の地であり、また多くの妖怪伝説が残っていることが分かった。

これを受けて平成 13 年、地元有志が呼びかけ、全国から支援を受けて「児啼爺」の石像を建てると、これを機に、毎年 11 月に「妖怪まつり」を開催するようになった。その後、山城町が世界妖怪協会から「怪遺産」に認定されると町ぐるみで妖怪をアピールする地域づくりに取り組むようになり、妖怪伝説をまとめた妖怪村伝説「おとろしや」の編集・発刊や、徳島･岩手･鳥取の３県と共催している「怪フォーラム」などの活動を通じて、妖怪文化の継承・発展に大きく貢献している。

●●評価のポイント●●

大理石の彫刻のような美しい岩肌がそそり立つ大歩危・小歩危峡などで知られる秘境の里、徳島県三好市山城町には、児啼爺をはじめとする 150 以上に及ぶ妖怪話が残っている。この地の妖怪話は、美しくも険しい土地での生活において、崖などの危険な場所での事故や事件から命を守る知恵として、古くから暮らしの中に受け継がれてきた。

ボランティア団体が中心となって行った歴史調査の中で見出した「妖怪」という地域資源を軸に、地域の団体が中心となって「四国の秘境　山城･大歩危妖怪村」が結成され、他にはない個性的な地域づくりに繋がっている。

妖怪村の村人が製作した妖怪像を巡る里歩きコースは、児啼爺の石像などもあり、豊かな自然と共に実に見応えがある。道の駅大歩危（妖怪屋敷）は、村人たちの手作りの温かな工夫に溢れており、口承という古きを大切にしながら、イラストや文章、映像などの新たな伝承方法を取り入れるなど、次世代への伝承を見据えた姿勢で来場者数を地道に増やし続けている。また、地元の食堂で食べられる「妖怪一つ目丼」や妖怪にまつわる土産物、「大歩危駅」での妖貝法螺吹き隊による列車の見送りには、村人たちのもてなしの気持ちと、妖怪という古くから受け継がれてきた地域の宝への深い愛が感じられた。

毎年 11 月には「妖怪まつり」を開催しているほか、徳島、岩手、鳥取の３県で実施している「怪フォーラム」にも、共催者として運営に大きく貢献しており、平成 29 年の「怪フォーラム」では１万１千人が訪れるなど、着実に妖怪文化が継承・発展してきている。

地域資源を掘り起こし、より魅力的になるよう地道な努力で磨き上げを行ってきた同団体の自立した取組は、地域の個性を生かして輝く事例として、他地域の優良な手本になると高く評価したい。

地元有志が呼びかけ、全国からの支援を受けて、水木しげるの漫画でも有名な「児啼爺」の石像を建立。

観光列車「四国まんなか千年ものがたり」の見送りを行う「妖貝法螺吹き隊」。編み笠と唐草模様の衣装を纏い「妖怪」と「法螺貝」を PR。

徳島、岩手、鳥取３県による「怪フォーラム」に第一回から参加。平成 29 年 11 月に開催した「怪フォーラム 2017in 徳島」では、1万1千人の来場があった。

DATE　徳島県 三好市（みよしし）

団体名▶四国の秘境　山城･大歩危妖怪村
所在地▶〒779-5452　徳島県三好市山城町上名1553番地１
連絡先▶TEL:0883-84-1489　FAX:0883-84-1222
E-mail:youkaimura@ctm.ne.jp
URL:http://www.yamashiro-info.jp/youkai/
【交通のご案内】
自動車▶徳島自動車道　井川･池田ＩＣから車で約40分
高知自動車道　大豊ＩＣから車で約30分
鉄　道▶JR大歩危駅から徒歩で約20分
飛行機▶徳島阿波おどり空港から車で約１時間45分

▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
三好市	71,370	47,057	37,305	34,103	29,951	26,836

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
三好市	-62.4	-43.0	-28.1	-21.3	-10.4

▶高齢者・若年者比率（H27 年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
三好市	41.0	9.1

全国過疎地域自立促進連盟会長賞

まちづくり学校双海人

ふるさとを愛し、たのしく学び、みんなが幸せになる
～地域の担い手を育て、移住者も一緒に幸せづくり～

高校生から 80 歳を超える高齢者までが楽しく学ぶ「まちづくり学校双海人」。活動を通して移住者も加わり、ふるさと双海を元気にしていきます。

●●事例の概要●●

特産品として開発をした「よもくれ団子」。地域のイベントにも積極的に参加。

伊予市双海地区は、松山市から約 20km の距離にあり、南予の玄関口に位置している。

平成 17 年の市町村合併後、伊予市の周辺地域となった双海地区には閉塞感が漂っており、こうした状況を打開するための地域の担い手の育成が急務であった。このため平成 24 年に、誰でも参加できる地域活性化の学び舎「まちづくり学校双海人」を発足させ、住民自らが楽しく活動することで、自分たちが暮らす地域が少しでも良くなることを実感しながら、「できる時に、できる人が、できることを」行うことをモットーとして活動している。

住民らにより結成されたまちづくり学校双海人の毎月の定例会では、様々なテーマの下、高校生から 80 歳を越える高齢者が意識を共有する学びの場となっている。特に興味関心の高い福祉・商品開発・イベント・移住については、クラブ活動として継続的に活動している。また、外部からの参加も自由とし、無理のない活動を許容する団体の寛容さが、移住者が地域に根付きやすい気運の醸成に寄与している。

●●評価のポイント●●

伊予市双海地区は、風光明媚な瀬戸内海に面しており、旧双海町時代に「しずむ夕日が立ちどまる町」で名を馳せた。今も予讃線の下灘駅ホームには多くの人が訪れている。

伊予市は、合併後に集落を小学校区ごとにまとめる地域組織の再編成を進めようと、平成 22 年に各地区に集落座談会を発足させたが、その際双海地区には、その推進サポート役として地域おこし協力隊員が配属された。集落組織の再編が進まない中、23 年度に着地型観光プロジェクトを提案して終了した「四国サイコーダイガク」双海プロジェクトで学んだ人と協力隊員が中心になって、継続的な学びの場として双海地区の活性化グループをつくる動きが生まれ、翌年高校生も含めて 80 人ほどが集まり、「まちづくり学校双海人」が誕生した。

協力隊員は教頭となり、元気な女性が校夢員、男性が用夢員として定例会が毎月行われ、クラブ活動での特産品開発では「よもくれ団子」を販売、コミュニティビジネスでは下灘珈琲の出店を実現した。毎月最終土曜日の軽トラ市もグループワークから生まれたものである。クラブ活動の一つである移住プロジェクトは平成 24 年に発足し、これも双海人の用夢員である協力隊 OB が中心に活動している。見学ツアーや交流会も実施して、築 86 年の素晴らしい木造校舎を持つ翠小学校の児童を増やすことに成功した。移住者のうち３家族の子ども８人のうち７人が翠小学校に通い、平成 25 年に 15 人だった児童数は、いま校区外通学を含め 22 人となっている。その後市は移住サポートセンター「いよりん」を中心部に置き、まちづくり学校双海人の教頭がここのスタッフとなっている。

毎夏の夕焼けビールトロッコ列車の貸切り運行や、合併 10 周年を記念して行われた公募による市民映画製作などの大掛かりなイベントも、まちづくり学校双海人が中心に実施してきた。会員の中には起業した人も複数いて、参加する中で地元で生きる意欲が高まっていく双海人という集まりの価値を明確に示している。

「双海で何かしたい人の（私的な）集まり」が、地域おこし協力隊を活用して６年間にこれだけの成果を上げていることは極めて貴重であり、高く評価できる。

毎月の定例会では、必ず意見交換できるワークショップを開催。たくさんのアイディアが出され、できることから実践しています。

子育て世代をターゲットにした移住ツアー。参加した子どもたちもみかん採りに夢中。この中のご家族が実際に移住し、新たにパン屋を起業しました。

ワークショップのアイディア出しから始まった「しずむ夕日が立ちどまる町の軽トラ市」。軽トラの荷台からのお菓子まきには、お客さんも大盛り上がり。

DATE　愛媛県 伊予市（いよし）

団体名▶まちづくり学校双海人
所在地▶〒799-3292　愛媛県伊予市双海町上灘甲5821-6（伊予市双海地域事務所内）
連絡先▶TEL：089-986-1111　FAX：089-986-1224
E-mail：futamintyu@gmail.com
URL:https://www.facebook.com/Futaminchu/
【交通のご案内】
自動車▶松山自動車道　松山ＩＣから約20分
鉄　道▶JR予讃線で松山駅から伊予市駅まで約20分
伊予鉄道郡中線で松山市駅から郡中駅まで約25分
飛行機▶松山空港から車で約30分

▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
伊予市	49,106	42,842	40,505	39,493	38,017	36,827

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
伊予市	-25.0	-14.0	-9.1	-6.8	-3.1

▶高齢者・若年者比率（H27 年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
伊予市	31.4	12.5

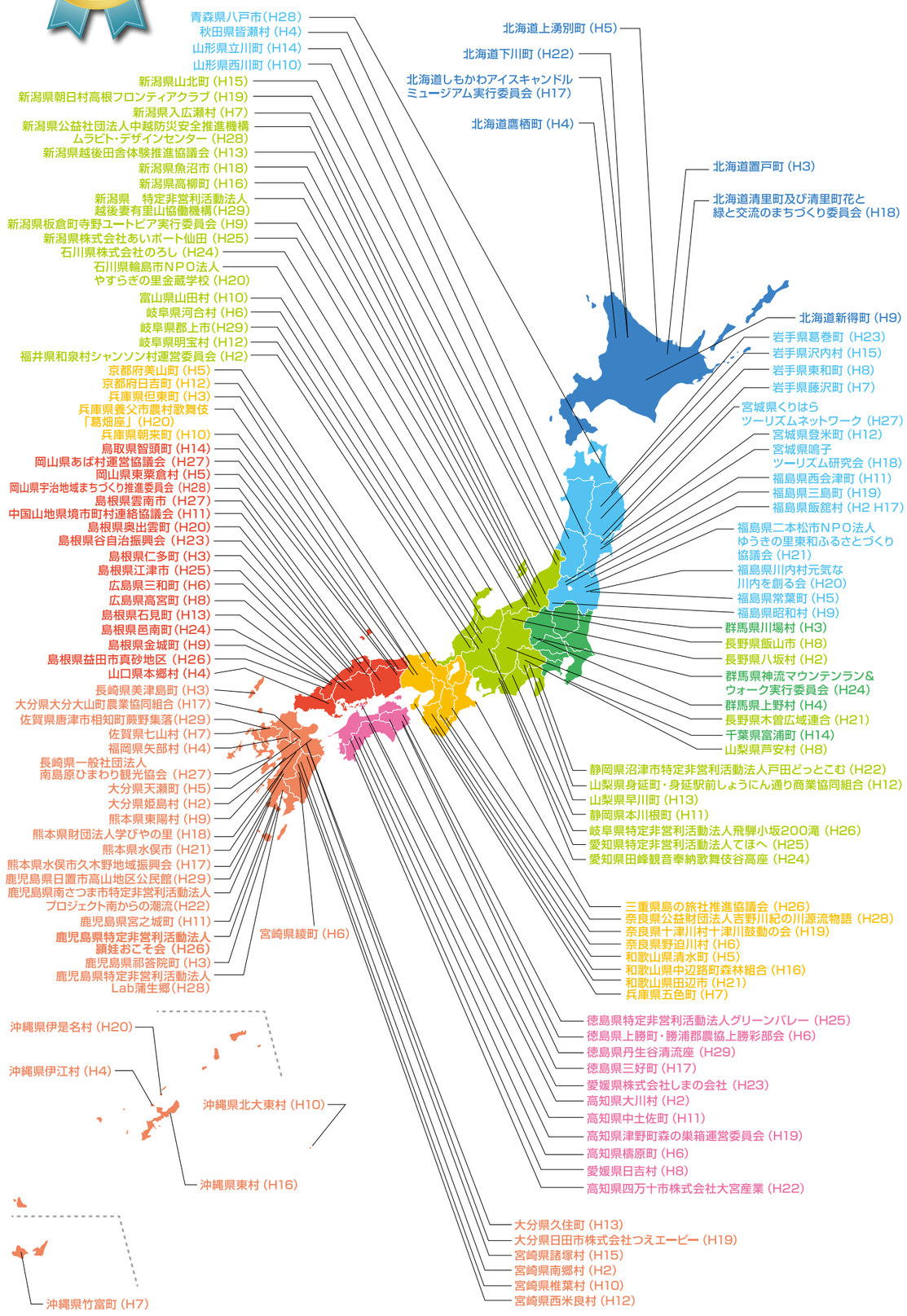
平成2～29年度　過疎地域自立活性化優良事例表彰

総務大臣賞　受賞団体一覧（平成12年度までは、国土庁長官賞）

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成2年度	福島県	飯舘村	
	福井県	和泉村シャンソン村運営委員会	和泉村
	長野県	八坂村	
	高知県	大川村	
	大分県	姫島村	
	宮崎県	南郷村	
平成3年度	北海道	置戸町	
	群馬県	川場村	
	兵庫県	但東町	
	島根県	仁多町	
	長崎県	美津島町	
	鹿児島県	祁答院町	
平成4年度	北海道	鷹栖町	
	秋田県	皆瀬村	
	群馬県	上野村	
	山口県	本郷村	
	福岡県	矢部村	
	沖縄県	伊江村	
平成5年度	北海道	上湧別町	
	福島県	常葉町	
	京都府	美山町	
	和歌山県	清水町	
	岡山県	東粟倉村	
	大分県	天瀬町	
平成6年度	岐阜県	河合村	
	奈良県	野迫川村	
	広島県	三和町	
	徳島県	上勝町・勝浦郡農協上勝彩部会	
	高知県	梼原町	
	宮崎県	綾町	
平成7年度	岩手県	藤沢町	
	新潟県	入広瀬村	
	兵庫県	五色町	
	佐賀県	七山村	
	沖縄県	竹富町	
平成8年度	岩手県	東和町	
	山梨県	芦安村	
	長野県	飯山市	
	広島県	高宮町	
	愛媛県	日吉村	
平成9年度	北海道	新得町	
	福島県	昭和村	
	新潟県	板倉町寺野ユートピア実行委員会	板倉町
	島根県	金城町	
	熊本県	東陽村	
平成10年度	山形県	西川町	
	富山県	山田村	
	兵庫県	朝来町	
	宮崎県	椎葉村	
	沖縄県	北大東村	
平成11年度	福島県	西会津町	
	静岡県	本川根町	
	鳥取県、島根県、岡山県、広島県	中国山地県境市町村連絡協議会	
	高知県	中土佐町	
	鹿児島県	宮之城町	
平成12年度	宮城県	登米町	
	山梨県	身延町、身延駅前しょうにん通り商業協同組合	
	岐阜県	明宝村	
	京都府	日吉町	
	宮崎県	西米良村	
平成13年度	新潟県	越後田舎体験推進協議会	東頸郡
	山梨県	早川町	
	島根県	石見町	
	大分県	久住町	

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成14年度	山形県	立川町	
	千葉県	富浦町	
	鳥取県	智頭町	
平成15年度	岩手県	沢内村	
	新潟県	山北町	
	宮崎県	諸塚村	
平成16年度	新潟県	高柳町	
	和歌山県	中辺路町森林組合	中辺路町
	沖縄県	東村	
平成17年度	北海道	しもかわアイスキャンドルミュージアム実行委員会	下川町
	福島県	飯舘村	
	徳島県	三好町	
	熊本県	水俣市久木野地域振興会	水俣市
	大分県	大分大山町農業協同組合	日田市
平成18年度	北海道	清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	
	宮城県	鳴子ツーリズム研究会	大崎市
	新潟県	魚沼市	
	熊本県	財団法人学びやの里	小国町
平成19年度	福島県	三島町	
	新潟県	高根フロンティアクラブ	朝日村
	奈良県	十津川鼓動の会	十津川村
	高知県	森の巣箱運営委員会	津野町
	大分県	株式会社つえエーピー	日田市
平成20年度	福島県	元気な川内を創る会	川内村
	石川県	NPO法人 やすらぎの里 金蔵(かなくら)学校	輪島市
	兵庫県	農村歌舞伎「葛畑座」	養父市
	島根県	奥出雲町	
	沖縄県	伊是名村	
平成21年度	福島県	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会	二本松市
	長野県	木曽広域連合	
	和歌山県	田辺市	
	熊本県	水俣市	
平成22年度	北海道	下川町	
	静岡県	特定非営利活動法人 戸田どっとこむ	沼津市
	高知県	株式会社 大宮産業	四万十市
	鹿児島県	特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流	南さつま市
平成23年度	岩手県	葛巻町	
	島根県	谷自治振興会	飯南町
	愛媛県	株式会社 しまの会社	上島町
平成24年度	群馬県	神流マウンテンラン＆ウォーク実行委員会	神流町
	石川県	株式会社 のろし	珠洲市
	愛知県	田峰観音奉納歌舞伎谷高座	設楽町
	島根県	邑南町	
平成25年度	新潟県	株式会社　あいポート仙田	十日町市
	愛知県	特定非営利活動法人　てほへ	東栄町
	島根県	江津市	
	徳島県	特定非営利活動法人　グリーンバレー	神山町
平成26年度	岐阜県	特定非営利活動法人　飛騨小坂200滝	下呂市
	三重県	島の旅社推進協議会	鳥羽市
	島根県	益田市真砂地区	益田市
	鹿児島県	特定非営利活動法人　顎娃おこそ会	南九州市
平成27年度	宮城県	くりはらツーリズムネットワーク	栗原市
	島根県	雲南市	
	岡山県	あば村運営協議会	津山市
	長崎県	一般社団法人　南島原ひまわり観光協会	南島原市
平成28年度	青森県	八戸市	
	新潟県	公益社団法人　中越防災安全推進機構　ムラビト・デザインセンター	長岡市
	奈良県	公益財団法人　吉野川紀の川源流物語	川上村
	岡山県	宇治地域まちづくり推進委員会	高梁市
	鹿児島県	特定非営利活動法人　Lab蒲生郷	姶良市
平成29年度	新潟県	特定非営利活動法人　越後妻有里山協働機構	十日町市
	岐阜県	郡上市	
	徳島県	丹生谷 清流座	那賀町
	佐賀県	唐津市相知町　蕨野集落	唐津市
	鹿児島県	日置市高山地区公民館	日置市

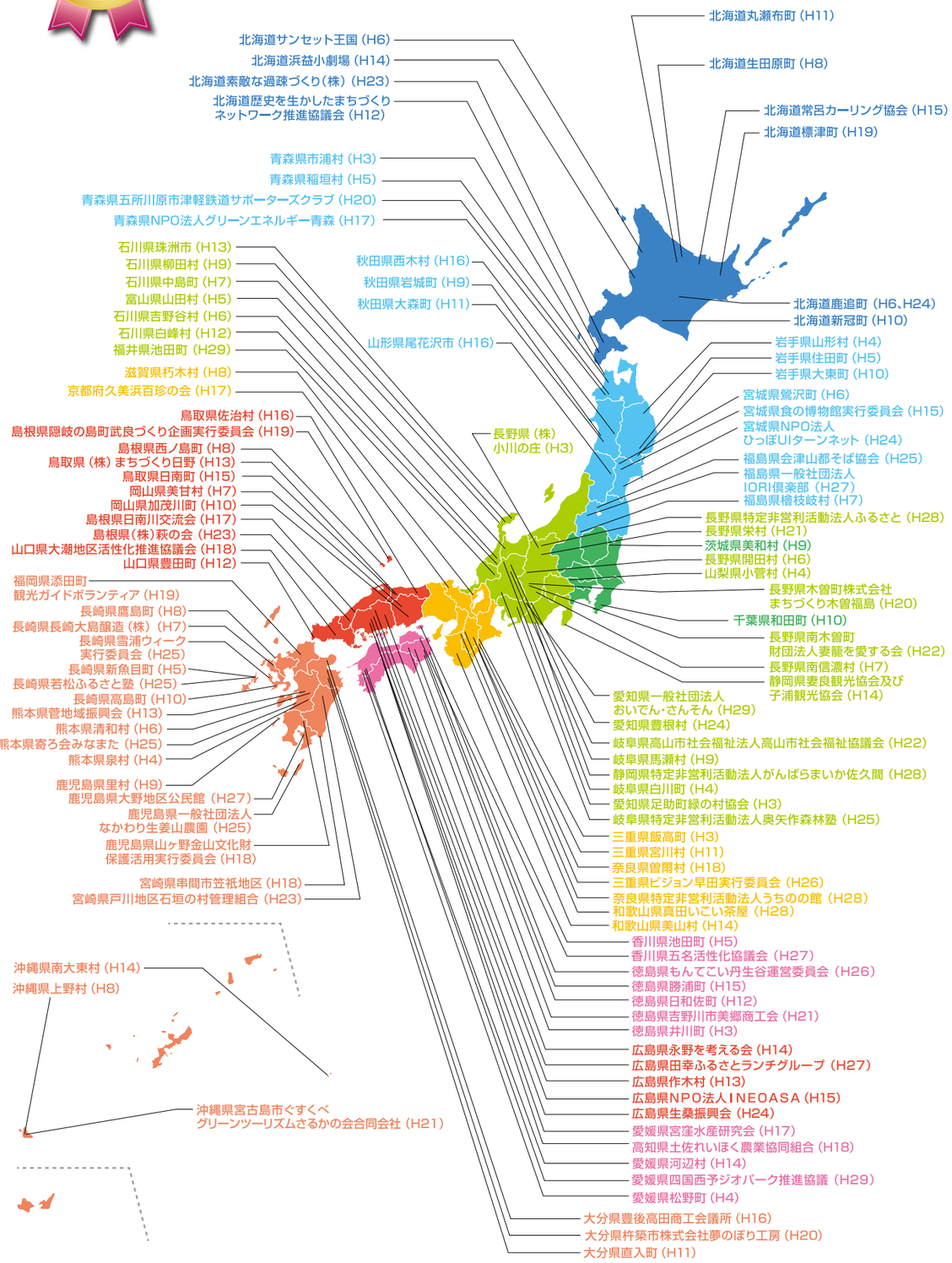
受賞団体位置図



平成3～29年度　過疎地域自立活性化優良事例表彰

全国過疎地域自立促進連盟会長賞　受賞団体一覧（平成11年度までは、全国過疎地域活性化連盟会長賞）

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成3年度	青森県	市浦村	
	長野県	株式会社小川の庄	小川村
	愛知県	足助町緑の村協会	
	三重県	飯高町	
	徳島県	井川町	
平成4年度	岩手県	山形村	
	山梨県	小菅村	
	岐阜県	白川町	
	愛媛県	松野町	
	熊本県	泉村	
平成5年度	青森県	稲垣村	
	岩手県	住田町	
	富山県	山田村	
	香川県	池田町	
	長崎県	新魚目町	
平成6年度	北海道	サンセット王国	羽幌町
	北海道	鹿追町	
	宮城県	鶯沢町	
	長野県	開田村	
	石川県	吉野谷村	
	熊本県	清和村	
平成7年度	福島県	檜枝岐村	
	石川県	中島町	
	長野県	南信濃村	
	岡山県	美甘村	
	長崎県	長崎大島醸造株式会社	大島町
平成8年度	北海道	生田原町	
	滋賀県	朽木村	
	島根県	西ノ島町	
	長崎県	鷹島町	
	沖縄県	上野村	
平成9年度	秋田県	岩城町	
	茨城県	美和村	
	石川県	柳田村	
	岐阜県	馬瀬村	
	鹿児島県	里村	
平成10年度	北海道	新冠町	
	岩手県	大東町	
	千葉県	和田町	
	岡山県	加茂川町	
	長崎県	高島町	
平成11年度	北海道	丸瀬布町	
	秋田県	大森町	
	三重県	宮川村	
	大分県	直入町	
平成12年度	北海道	歴史を生かしたまちづくりネットワーク推進協議会	江差町、上ノ国町、松前町
	石川県	白峰村	
	山口県	豊田町	
	徳島県	日和佐町	
平成13年度	石川県	珠洲市	
	鳥取県	株式会社まちづくり日野	日野町
	広島県	作木村	
	熊本県	菅地域振興会	矢部町
平成14年度	北海道	浜益小劇場	浜益村
	静岡県	妻良観光協会及び 子浦観光協会	南伊豆町
	和歌山県	美山村	
	広島県	永野を考える会	神石町
	愛媛県	河辺村	
	沖縄県	南大東村	

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成15年度	北海道	常呂カーリング協会	常呂町
	宮城県	食の博物館実行委員会	加美町
	鳥取県	日南町	
	広島県	NPO法人 INE OASA	大朝町
	徳島県	勝浦町	
平成16年度	秋田県	西木村	
	山形県	尾花沢市	
	鳥取県	佐治村	
	大分県	豊後高田商工会議所	豊後高田市
平成17年度	青森県	NPO法人グリーンエネルギー青森	鰺ヶ沢町
	京都府	久美浜百珍の会	京丹後市
	島根県	日南川交流会	邑南町
	愛媛県	宮窪水産研究会	今治市
平成18年度	奈良県	曽爾村	
	山口県	大潮地区活性化推進協議会	周南市
	高知県	土佐れいほく農業協同組合	土佐町
	宮崎県	串間市笠祇地区	
	鹿児島県	山ケ野金山文化財保護活用実行委員会	霧島市
平成19年度	北海道	標津町	
	島根県	武良づくり企画実行委員会	隠岐の島町
	福岡県	添田町観光ガイドボランティア	添田町
平成20年度	青森県	津軽鉄道サポーターズクラブ	五所川原市
	長野県	株式会社 まちづくり木曽福島	木曽町
	大分県	株式会社 夢のぼり工房	杵築市
平成21年度	長野県	栄村	
	徳島県	美郷商工会	吉野川市
	沖縄県	ぐすくべグリーンツーリズムさるかの会合同会社	宮古島市
平成22年度	長野県	財団法人 妻籠を愛する会	南木曽町
	岐阜県	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会	高山市
平成23年度	北海道	素敵な過疎づくり　株式会社	厚沢部町
	島根県	株式会社　萩の会	益田市
	宮崎県	戸川地区石垣の村管理組合	日之影町
平成24年度	北海道	鹿追町	
	宮城県	NPO法人 ひっぽUIターンネット	丸森町
	愛知県	豊根村	
	広島県	生桑振興会	安芸高田市
平成25年度	福島県	会津山都そば協会	喜多方市
	岐阜県	特定非営利活動法人　奥矢作森林塾	恵那市
	長崎県	雪浦ウィーク実行委員会	西海市
	長崎県	若松ふるさと塾	新上五島町
	熊本県	寄ろ会みなまた	水俣市
	鹿児島県	一般社団法人　なかわり生姜山農園	西之表市
平成26年度	三重県	ビジョン早田実行委員会	尾鷲市
	徳島県	もんてこい丹生谷運営委員会	那賀町
平成27年度	福島県	一般社団法人　IORI倶楽部	三島町
	広島県	田幸ふるさとランチグループ	三次市
	香川県	五名活性化協議会	東かがわ市
	鹿児島県	大野地区公民館	垂水市
平成28年度	長野県	特定非営利活動法人　ふるさと	長野市
	静岡県	特定非営利活動法人　がんばらまいか佐久間	浜松市
	奈良県	特定非営利活動法人　うちのの館	五條市
	和歌山県	真田いこい茶屋	九度山町
平成29年度	福井県	池田町	
	愛知県	一般社団法人　おいでん･さんそん	豊田市
	愛媛県	四国西予ジオパーク推進協議会	西予町

受賞団体位置図